

橋梁被害の概要

西日本高速道路株式会社管理橋梁

球磨川渡河橋

九州大学 梶田幸秀

京都大学 上田知弥

2026年8月6日

土木学会地震工学委員会
令和8年熊本地震に関する速報会

現地調査を行った橋梁

- (1) 川田（かわだ）橋 九州自動車道
- (2) 片野川（かたのがわ）橋 九州自動車道
- (3) 妙見第一（みょうけんだいいち）橋 南九州自動車道



福岡・熊本方面

宮崎・鹿児島方面

国道3号の青線は梶田が加筆

国道3号

川田橋

変位境界線

1. 右横ずれ
1.3 m
(八代市川田町東)

0 100 m

国道3号

妙見第一橋
南九州道

片野川橋
九州道

1. 右横ずれ
1.2 m
(八代市妙見町)

国土地理院：令和8年熊本地震の画像から判読された変位境界（速報）（八代地区）

2026年7月31日公開

<https://www.gsi.go.jp/common/000279851.pdf>

注意事項：本報告で示した変位境界線は、地震前後の空中写真から判読した水平変位の不連続な境界を示したものであり、地表に現れた亀裂や地表地震断層そのものを示したものではありません。

川田橋 1979年完成

梶田は8月4日に調査したため、7月31日調査された上田先生に写真を提供していただきました。



上下線ともに

- 4径間鈑桁橋＋単純箱桁橋
国道3号をまたぐ
- 橋軸方向：北東－南西

阪神淡路大震災以降，橋脚の巻き立て補強は実施されている。

構造物被害（注）

- 橋梁部ジョイントの損傷
- 桁ずれ
- 路面の段差・開き
- 検査路の落下・損傷

構造物被害は，NEXCO西日本，お知らせ

令和8年熊本地震によるE3九州自動車道川田橋ほか2橋の損傷について，から引用

2026年7月31日公開

<https://www.w-nexco.co.jp/emc/emcpdfs/20260731082107-01.pdf>

宮崎・鹿児島方面

福岡・熊本方面

上り線

下り線



左の写真は、NEXCO西日本、お知らせ
令和8年熊本地震によるE3九州自動車道川田橋ほか2橋の
損傷について、から引用

①

上り線



②

下り線





P1橋脚支承



P2橋脚支承



P3橋脚支承



P4橋脚（掛け違い部）

P1, P3, P4は上り線

P2は下り線

上り線でいえば、桁が左方向に移動し、P1橋脚支承が壊れるのは理解できる。しかし、連続桁ではあるがP3橋脚支承は耐えている。ただし下フランジの座屈は見られる

連結版のボルトが見えない

P2橋脚上り線を撮影するのを忘れました。

周辺地盤について



A1橋台とP1橋脚間で変位境界がみられたのではないかと推察される

片野川橋

八代IC一人吉IC区間

平成元年（1989年）12月開通（暫定2車線）
平成9年（1997年）7月拡幅（4車線）

調査日 7月29日



福岡・熊本方面

宮崎・鹿児島方面

手前：上り線

奥：下り線

- 両側橋台の単純桁橋

- 橋軸方向：北－南

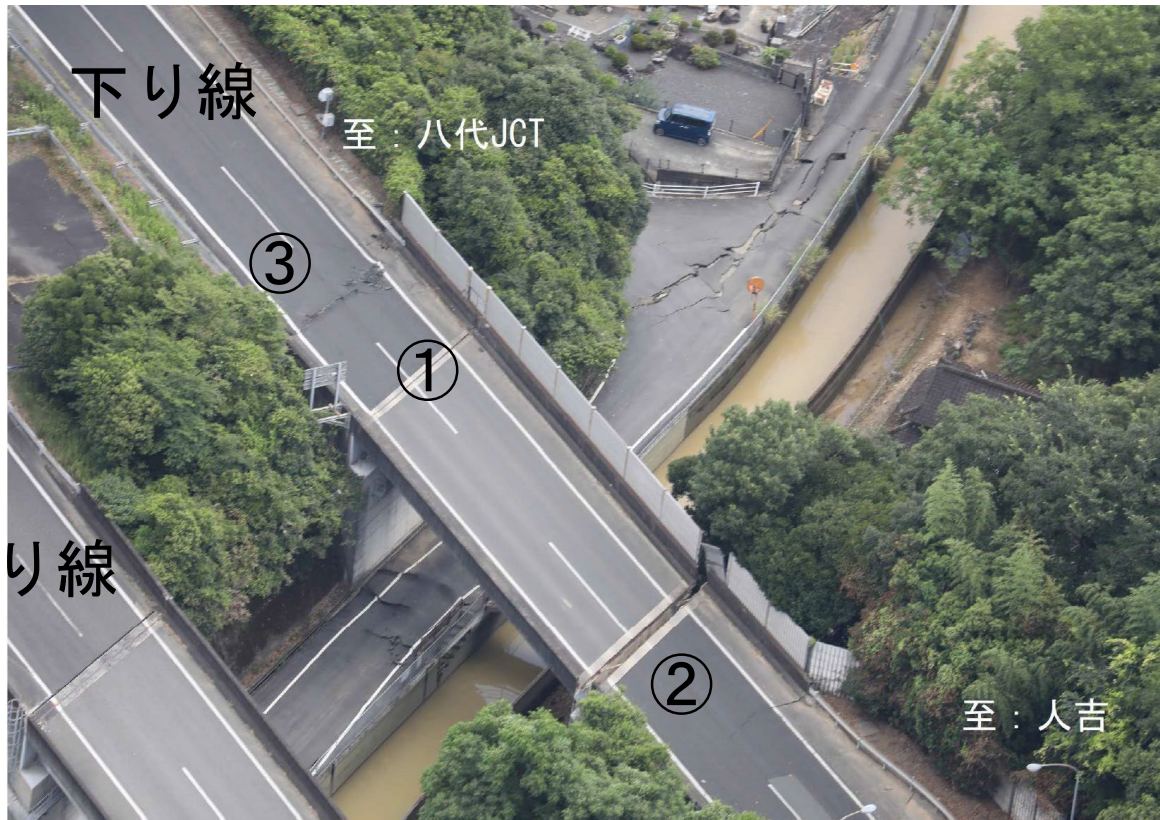
構造物被害（注）

- 橋梁部桁ずれ

- 路面の段差・開き

構造物被害は、NEXCO西日本、お知らせ
令和8年熊本地震によるE3九州自動車道川田橋ほか2橋の損傷について、から引用

上り線



上の写真は、NEXCO西日本、お知らせ
令和8年熊本地震によるE3九州自動車道川田橋ほか2橋の損傷につ
いて、から引用



妙見第一橋

平成10年4月20日開通

調査日 7月29日



構造物被害は、NEXCO西日本、お知らせ

令和8年熊本地震によるE3九州自動車道川田橋ほか2橋の損傷について、
から引用

- 上り線，下り線ともに
福岡側は2径間連続鋼
桁橋，鹿児島側は上り
は単径間箱桁橋，下り
は2径間連続箱桁橋

上りは3主桁，1箱桁
下りは4主桁，2箱桁

- 橋軸方向：北北東－南
南西

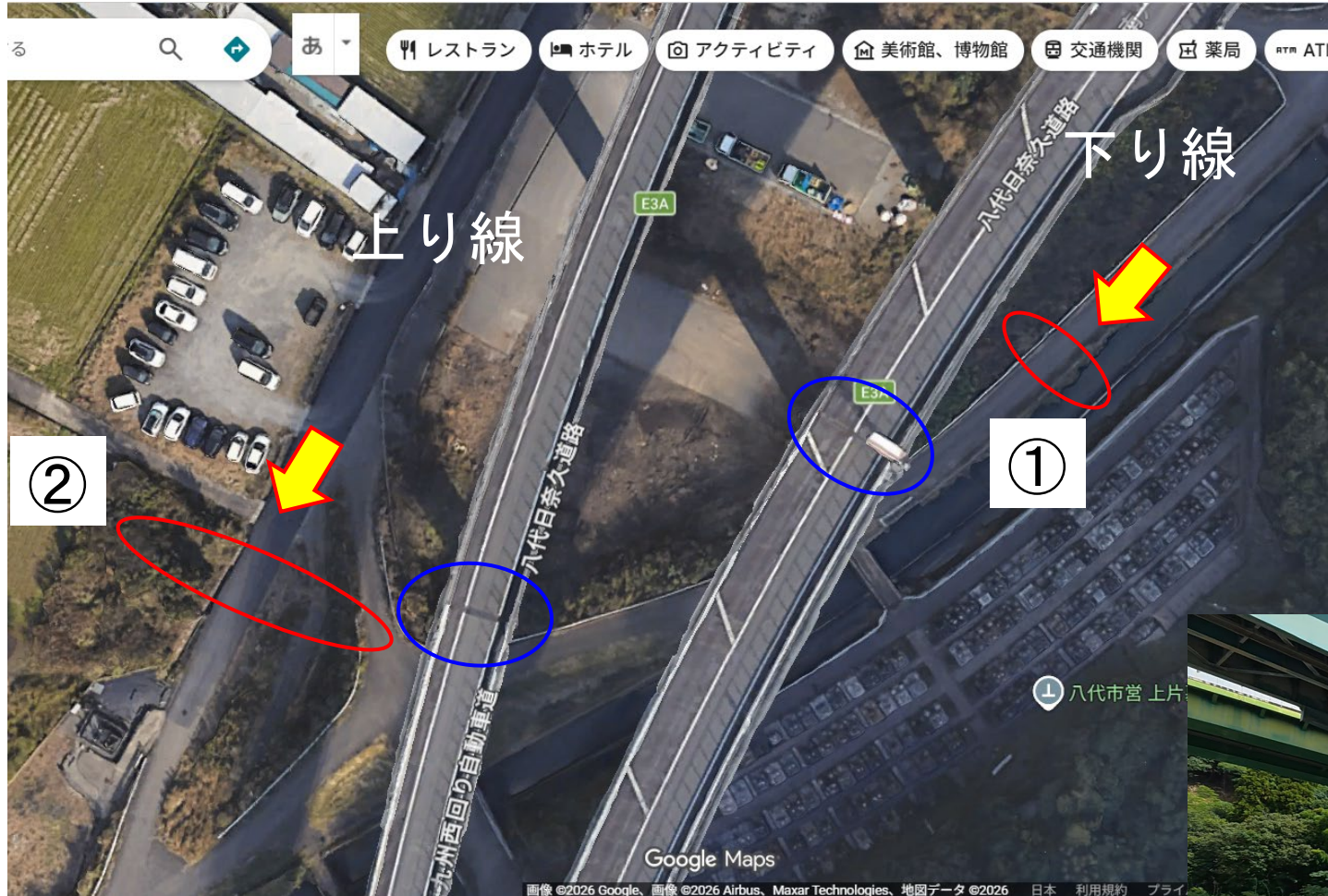
開通後，耐震補強は未実
施。

構造物被害（注）

- 橋梁部桁ずれ
- 路面の段差（1.5m）

Google mapの航空写真に梶田が加筆

福岡・熊本方面



鹿児島方面

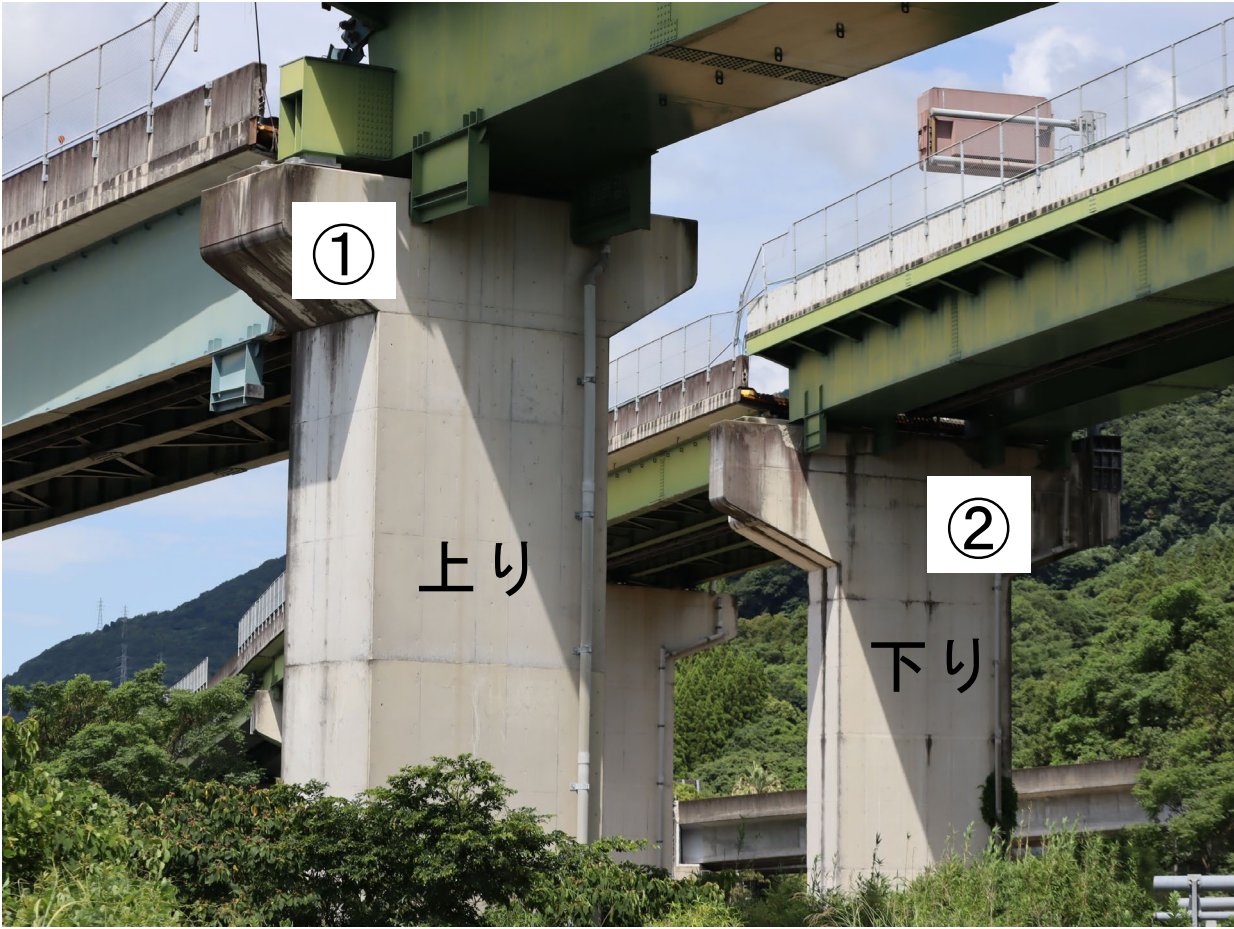
青色部分が桁がずれ落ちている橋脚



ずれ落ちなかった側の桁に着目すると

福岡・熊本方面

鹿児島方面



衝突はしているが橋脚天端（橋座部）は損傷無し

②



橋座部分の損傷の違いは上部構造重量の違いで説明できるのか？



左側の箱桁



右側の箱桁

上り線の状況



支承取り付け位置でウェブに取り付けた縦補剛材が効果を発揮している

8月4日付けで「南九州自動車道妙見第一橋復旧に関する検討委員会（委員長 松田泰治 九州大学名誉教授・熊本大学名誉教授）が設置され，8月6日13時30分から第1回検討委員会が実施されている

まとめ

今回紹介した3橋は、いずれも変位境界線を跨いだか、直近に存在する

道路橋示方書の設計用地震動による応答とは異なる応答をしていたと考えられる

橋梁の挙動を考える際に、変位境界のずれを静的に与えるだけで良いのか、それとも変位境界のずれを考慮した加速度時刻歴（変位時刻歴）を踏まえた動的応答が必要なのかは、今後の課題であると考ええる。